

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	MOTIV SX1	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.470	△RG	0.047	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：SX1

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 **3-3/4** インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ

研磨剤

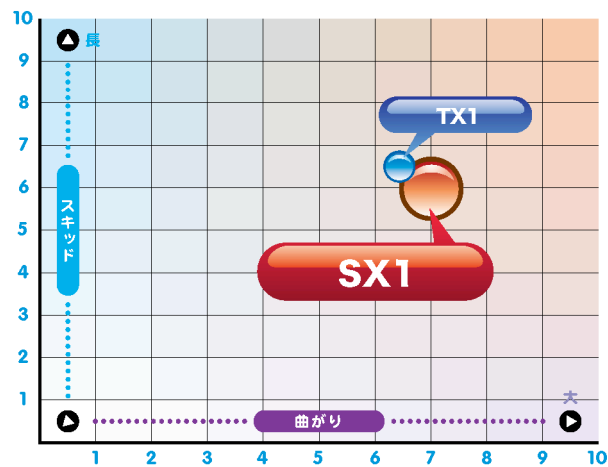
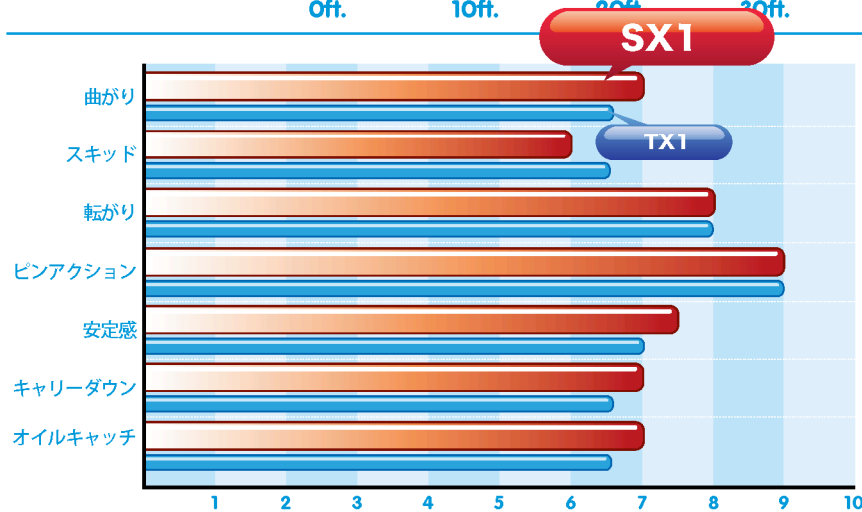
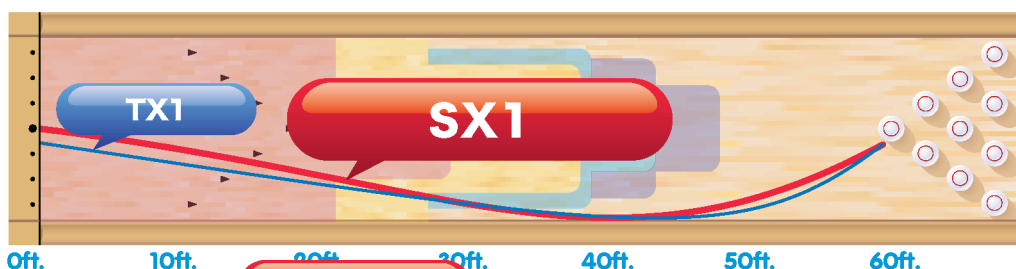
比較対照ボール：TX1

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 **3-3/4** インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ

研磨剤



レールコンディション	Light Oil	Light to Medium	Medium Oil	Medium to Heavy	Heavy Oil	バックエンドリアクション	Smooth	Smooth to Arc	Arc	Arc to Sharp	Sharp Angle	レンジス	Early Roll	Early to Med	Med-Lane	Med to Late	Late Roll
------------	-----------	-----------------	------------	-----------------	-----------	--------------	--------	---------------	-----	--------------	-------------	------	------------	--------------	----------	-------------	-----------

ボールの評価

旧ブランドウィック社が生産拠点としていたミシガンの工場から、最先端テクノロジーでカバーストック自体にプリントする「ウレタングラフィック」Neo Markとオイルの吸収率を下げながら耐久性をとパフォーマンスを兼ね備えた耐吸油性カバーストック「MOTIVATOR-X」とを融合させ、ABSに新たなブランドMOTIVが加わりました。

Neo Markの発想は、キャッチを担うカバーストック自体の刻印をなくし、表面の凹凸をなくすことが、より常にカバーストックとの接地面積を増やすこと。所謂、トラックエリアに刻印部分の凹凸をなくし、安定したリアクションを求めた結果と言えるでしょう。

このSX1を投げた第一印象は、オイルの濃淡に過激に反応しない性能とバックエンドの切れ感を同時に得られる、これまでのリアクションにおける固定観念を覆すイメージでした。

リアクションにおけるロール部分が非常に長く感じることに同時に、ドライゾーンでも切れながら安定さを保つ事が出来るのは最近にはない性能だと感じています。その特徴的な性能が、投球における急激なライン変化を少なく感じさせてくれるのでしょう。またリリースされた瞬間からピンヒットまで「転がり続ける」感じがするのが好印象で、その転がり感は薄めのピンヒットには柔らかい、かき回すような粘り強いアクションへと連動しているようにも感じます。

このSX1は#2000アブラロンポリッシュでミディアムコンディション推奨ですが、投球後パワートルクを手前に出したい時は#2000番アブラロン、#1000番アブラロンと番手を調節すればヘビーオイルにも十分対応することができます。

新たなテクノロジーMOTIVの性能をその手でお試ください。

特記事項

急激なリアクション変化を補う耐吸油性カバーストック。
Neo Markと呼ばれるウレタングラフィック技術という新しい取り組みのボールです。